

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2020年6月号」

主は羊飼。わたしには何も欠けることがない。

詩編 23 篇 1 節

6月 梅雨の季節に入ります。分散登校を経て、6月1日から全校一斉の短縮通学、そして順調にいけば8日からは通常の通学を開始することができそうです。25日からの分散登校は、皆さまのご協力により大きなトラブルもなく実施することができました。ありがとうございました。子どもたちの元気な声を聞くことができるようになったことに感謝したいと思います。子どもがいてこそこの学校だなどと改めて感じました。

分散登校の各学年の初日、zoomで各クラスに中継する形で、奏楽とお祈り、子どもたちへのメッセージを行いました。メッセージでは、学校に行くことや友だちと遊ぶといった、あたりまえとっていたことがそうではなくなったとき、どんなことを感じたり考えたりしたか問いかけました。そして、普通のことが実はとても大切なことであるということ、これからは、小さなことにでも感謝していけたらいいですねと伝えました。また、今回のようなことがあっても、自分たちがとても恵まれているということ、同時にその恵みを、自分のためだけでなく他の人のためにも役立たせる使命をも与えられているということをお話しました。「多くを与えられる者は、多くを求められる」ということですね

「メント・モリ」というラテン語があります。ローマ帝国の時代から使われているこの言葉は直訳すると「死を忘れるな」。時代の変遷とともに「どうせ死ぬのだから、今を楽しめ」「どうせ死ぬのだから、この世のことに執着するな」などの捉え方なされてきたそうです。戦乱や疫病などで、死が今よりも身近な存在であったからこそ、人々の死生観はより深いものだったのかもしれません。今、この古い言葉が私たちに何かを語りかけているような気がします。私は「人生を楽しみつつ、だが浮かれ(過ぎ?)ずにいること」と受け取りたいと思っていますが、皆さまはいかがでしょう。これから先2波3波の感染拡大も予想されており、まだ先の見通しは不透明ですが、このようなときこそ学校とご家庭とがしっかりと連携していくことが大切です。どうかよろしくお祈りします。

(文責 宮崎 隆一)